

中齋塾 東京フォーラム
平成24年 第8回講話

平成24年10月13日
於 二松学舎大学

おはようございます。教室での講話は、みんな青春で勉強を始めたようで悪くはないですね。お隣の教室では学生さんが静かにパソコンで勉強をしています。私は学生時代あまり勉強をしませんでしたから、勉強をしたくなかった時に勉強をする。そのような環境が迎えられるのは良いなとつくづく感じました。

今回の素読も段々中身を味わいながら素読をしつつあるなと感じました。中身が濃くなっていくと味わい深いものになると思いますので、時々論語を家庭や仕事先で学んで頂くと良いと思います。

(塾長) 今回素読をして、何か気になる章句がありましたか？

(会員) 解らなかった部分があります。『吾 徒行して以て之が椁を為らざりき』です。

これはルールを守りますという意味です。孔子が息子のお葬式の時、自分の立場では派手なお葬式をしてはいけないと考え実行しています。

例えば、ご主人が亡くなります。ご主人が望んだかどうかは別として、奥さんは立派なお葬式を出したいと思った。ご主人の会社が社会を相手に手広く仕事をしていたら、それなりのものを作らなければいけないけれど、そうでなければ、あまり派手な事をやり過ぎる事は如何なものかと云う事です。なので、ご主人が亡くなってお葬式を出す時には、そんなに派手なことをしないで、自分の分を守って普通にやりましょうと自分に置き換えてみて下さい。

喋りついでに、先ほど代表幹事が恥の話をしましたから、少々ご説明いたします。

憲問第十四

【一】『憲 恥を問う。子曰く、邦道有るときは、穀す。邦道無きときに穀するは恥なりと』

今の民主党、自民党、その他の政党そのままの説明だなと思います。

「恥って一体何ですか」と聞かれて孔子が答えました。国がきちんとした政治を行っている時には、見返りで給料を貰うのはよいのだけれども、何もしないで給料を貰うのは、いかがなものか。

今の政治家は仕事をしないで、政治屋のことばかりしていて、それで給料を貰うのは恥ずかしいとは思わないのか。政党助成金を民主党は「要りません」と言っていたが、あれ

は「要らない」のではなく、「後で貰います」という事です。やはり恥ずかしいと思う一部に入ります。

国だけではなく、会社でもボランティアでも良い、きちんと仕事をしたら、その見返りを貰うべきである。ただ自分が何もしないで所属をしているだけで給料を貰うというのは、いかななものか。石ころを持って、ここから「給料をただ貰って恥ずかしいと思う人の所に飛んでいけ」と外へボーンと投げたら、たくさん当る人がいる様な気がします。

或る方の解釈で、この解説の時に「どこの国家を見ても、まともな国家はないから、こんな事言ったら誰も給料を貰えなくなるので、この読み方としては、邦道無きとき、穀するは恥なりと云うけれども、それだと生きていけないから、せめて自分だけは正しい道を行きましょう。それで給料を頂きましょう」と云う事を解説しています。ただ、官僚や政治家はきちんとした道徳を国に行き渡らせるべき人間が、そういう仕事をしないで、給料を貰うべきではない。という事で自分自身に置き換えて、今自分がしていることは「胸を張って給料を頂ける」という自信があるかどうか自問自答をしてみてください。

恒例の質問

・短い時間だから、嘘をつく暇がないとは思いますが、朝起きてここに来るまで嘘をつかなかった方？

・昨日一日の中で有難うと言ひ、有難うと言われた方？

・今朝起きて健康法を実行した方？

健康法を実行しないのは若い人が多いですね。この間、中斎塾幹事のお誘いで老化防止の講演を聞きに行ってきました。その内容は、お砂糖を多めに取ると老ける。砂糖を断つと（減らしてもよいのですが）、若返るそうです。老化防止に関してあと面白かったのは、「心のときめき」を感じると若返って、老けないそうです。歳がいけばいくほど若い友達を持つと良いそうです。若い人とお喋りをするのも良い。瀬戸内寂聴さんや宇野千代さんが書いてあるものを読むとそうでしたよね。そのような人はずっと若々しいものだと感じます。それなりに若い友達を作るのがよいでしょうと云う事を、この間のイベントで教わりました。

中斎塾の会員さんは色々と活躍されていますので、皆さんも表面的なお付き合いだけではなく、一步踏み込んで話を深くしてみたら良いと思います。

私の執筆方法

今、河井継之助の本を執筆していますが、出版社へ初校のチェックが終了し昨日渡しました。ちなみに私の執筆方法は、二つぐらいのダンボールに河井継之助の関係の本が入っ

ており、その関連書を一氣に読み、頭の中に入れ、何度も反芻し頭に沁みこませます。その作業に 1 カ月位はかかります。沁みこんだものをテープに入れて、そのテープを起し、また読んであちらこちら直します。出てきたものを見て、原本と照らし合わせて違っていたら直す作業で 2 カ月位かかります。来週は河井継之助の出版が一段落するので、それにあわせて渋沢栄一に取りかかります。渋沢栄一は今まで何度も話していますので、1 か月半ぐらいで形にするつもりです。間違いないと思えるのは、年内に河井継之助の本を出し、来年のパーティにはお土産としてお渡しができるだろうという事です。

『渋沢論語を読む』の時には、個人情報保護法がありませんでしたから、書いた原稿を各人に見せて、確認をとりましたので、その作業に 3 カ月位かかったと思います。今回、名前を出したのは、後書きの所と写真ぐらいです。推薦文を依頼しようかと思ったのですが、止めた方がおります。木内顧問の従兄弟である渋沢家当主の雅英氏です。

渋沢栄一と岩崎弥太郎の有名な船中間答では、二人とも正面から激突して激論を戦わして二人はあい譲らなかったという話が残っています。渋沢栄一と岩崎弥太郎は喧嘩したけれども、お互いの孫同士が結婚した。当時は閨閥結婚ではないかと新聞等々に出ていたそうですが、色々調べてみると恋愛結婚みたいでした。

渋沢栄一の孫と岩崎弥太郎の孫が結婚して、木内顧問からみると雅英氏とは従兄弟関係になるという経緯があったので、木内顧問に紹介して戴き雅英氏に会いました。雅英氏は 87 歳になられ、私のゲラを見たり推薦文を書いたりする事は、今でも全国からいっぱい原稿のゲラが送られてきて、とてもとても見きれない状態でした。ただ当人が見るのではなく、渋沢資料館の館長がその役なのですが、館長も手一杯で、これでは推薦文を頼めないなと思いました。ただ表敬訪問をして挨拶はしたという所で終わりにしようと思いました。

今月の論語 『先進第十一』

【四】子曰く、考なるかな閔子騫。人 其の父母昆弟の言を聞せず。

孔子が言うには閔子騫は親孝行だ。人というのは他人です。閔子騫の一族、父母兄弟で閔子騫は実に親孝行者だなというのを他人が聞いて、その通りだねと言う。

最近親孝行しない人が多いですから、これも中々見られない現象ですね。先ほどの渋沢栄一も同じですが、血気盛んでひとつの考え方を純粹に信じきっていた若い頃、世に事を起そうとして、親に対して「理由は言えないが勘当をして欲しい」と言った事がありますが、親は「親孝行というものは、子供が親にするものだと思っていただけで、この歳になって初めて分かった。親孝行は親が子供に対してするものだ」と悟らせられた。私は勘当をしない。好きな事をしなさい。出て行って宜しい。私は子供に対して孝行をする、これを親孝行というのだなあ」という話が残っています。親が亡くなった時には三年間喪に服するという言葉がありますが、渋沢栄一は「三年間本当に喪に服するのではなく、心の中で

身を慎めばよいので、私は自分のやりたい事をやりたいようにする。それが親の望む所であらうと思う」と言っています。世間的にみれば栄一は結構勝手な事をしているなと思います。

【五】南容 白圭を三復す。孔子 其の兄の子を以て之に妻あわす。

三復は何度も何度もという事です。白圭は白い玉です。

南容は実に素晴らしい人物だ。白い玉が欠けたら、その時には磨けば直るけれども、言葉が欠けたものは直すことは出来ない。だから人様にかかる言葉は氣をつけた方がよい。後から悔んでも元には戻りませんから、よくよく言葉を考えて出した方がよいでしょう。

孔子は、この様な事を考えて実行している南容を評価し、孔子の兄の娘を南容の嫁に出しました。

【六】季康子 問う。弟子 孰か学を好むと為すと。孔子 対えて曰く、顔回という者有り、学を好めり。不幸 短命にして死せり。今や則ち亡しと。

季康子が孔子に「弟子の中で誰が学問好きですか？」と聞いたら、孔子は「顔回という者がいました。学問が好きで第一の弟子でしたが、残念ながら早死にしまいました。もう学問好きというのがいえる人物はおりません。がっかりしています」と答えた。

【七】顔淵 死す。顔路 子の車を請いて、以て之が椁を為らんとす。子曰く、才も不才も亦 各 其の子と言うなり。鯉や死せるとき、棺有りて椁無し。吾 徒行して以て之が椁を為らざりき。吾れ大夫の後に従うを以て、徒行すべからざればなりと。

顔淵が亡くなりました。父の顔路が息子顔淵のために立派な棺を作りたいので、先生の車を私に下さい。それを売って息子のために立派な棺を作りたいと言いました。

今、上野でツタンカーメン展がやっておりますが、平日も行列でたいへん盛況です。エジプトの王の棺は、何重にもしてゆく為段々大きくなります。孔子の時代の棺も似ていました。そのような棺を作りたいと顔路の父は言っています。

孔子は、才能のある子供も、才能のない子供も皆それぞれ自分の子供で変わりがない。私の子供の鯉（り）が死んだ時には立派な棺は作らず普通の棺を作った。孔子の息子が亡くなった時には、自分の分に応じて立派な棺は作らないし、馬車でふんぞり返らないで歩いて、自分の分を守ったお葬式を子供にはしました。顔路も自分の分を守ったお葬式をなさいと云った訳です。

ちなみに、私はお葬式に行くか行かないかだいぶ迷った時期があり、その考えが途中で変わりました。ある日突然知り合いが亡くなった時、「さようなら」と言いたいと思った

ら、万難排して行く。いくら世話になっていても「さようなら」と言いたくないと思っただけなら行かないと決めたら、すっきりしました。…行かないケースが増えました。

判断基準が解りやすくなり、行くと決めたら仕事をキャンセルして行っても誰も文句を言いません。ああ成る程こういうものかと実感したので、他の人達が葬儀の件で話し合っている私はずいぶん決断し、行くか行かぬかをすぐその場で言えます。自分の心に忠実にとなったら、爽やかに判断できるようになりました。

今月の本

『グローバル化の終わり、ローカルからの始まり』吉澤保幸著 株式会社経済界出版

木内顧問が勧めていた本で、今回は皆様にプレゼント致しますので、どうぞ皆様もお読み下さい。私も読んだのですが、生煮えではあるが、世の中が変わりつつあるひとつの触りが出ているなと感じました。

人類がお金を発明しましたが、そのお金という仕組みが終了を迎えています。お金で決済する仕組みは終わり、新しいものが生まれるでしょうという話を何回かしていますが、その様な事をこの本は紹介しています。この本では温かいお金と表現しています。私なりに温かいお金を理解したのは、銀行は誰かにお金を融通したら、金利を取って稼ぐのですが、金利はダメというものです。自分が汗を流して働いて農作物を金利分でお渡ししようという提案です。

この間、ある講演で金利はお金ではなく農作物ではどうかと、ある銀行の元会長さんに水を向けたら、これから金利で回すのはちょっと無理かなという事、銀行もそろそろ立ち行かなくなるという危険性をだいぶ感じていると思いました。今、お金がお金を生む仕組みはだいぶ行き詰まっています。あつという間に（数字の単位）京（けい）でしょう。京の上は垓（がい）でしたっけ？使った事が無い様なもので取引する世の中というものは、もう行き詰まっていると感じます。

銀行家と話す時に話題になるのですが、石川啄木、野口英世、夏目漱石等の金銭感覚。この人達のお金の考え方が面白いなと思ったのは、啄木でいいますと、人様からお金を借りて借りたと思っている。相手は石川啄木に貸したと思っている。これは正常な感覚です。野口英世は借りたと思っているが相手はあげたと思っている。ここら辺は、確か相手の娘さんと結婚するから勉強する費用を下さいと言い、お金を貰って結婚しなかった。渡航費用も貰ったが、一晩どんちゃん騒ぎをして使ってしまったので、もう一度出して貰った。この人は金銭感覚がありませんね。甚だしいのは、借りたのだけれども貰ったと思っている人。この様に色々と分けていったら、親から貰って当たり前という鳩山さん。お金の考え方も人によってだいぶ違います。正常な判断基準を自分で持っているかどうか考えた方

が良いかと最近思います。学生に聞くと「親から貰った、親から借りた。どっちか?」、また「返そうと思うか?」と聞きますと、返そうと思わない人が多いです。この本を読んで色々と考えさせられました。自分の金銭感覚をお考え頂くのが良いでしょう。現代の政治家、官僚、実業界、一昔前の名が残っている人達、全員金銭感覚を並べてみるときっちり分けされてくる。これは「陽明学のすすめ」の次のテーマではないかと、浮かんできていますので楽しみです。

汗を流して一生懸命働いて稼ぐのは普通だと一般の人は思っている訳ですが、段々そうではなくなってきました。例えば、アメリカのデモで1対99というのがありました。それは1パーセントの人に富がいき、99パーセントの人にはいかない。我々はそれに反対であるというデモが行われたようです。ごく一握りの人にしか富が集中しないという事ですが、木内先生が「国が国家国民を騙すのは、百年が限度。百年過ぎてその仕組みが皆の賛同を得られなければ、続くわけがない」という言い方をしておられます。周りの人達が満足しない今の世の中の仕組みが、そうそう続くわけがない。お金の仕組み、皆様が生きておられる時に段々変わってくると思いますから、変わる時の変わり方、自分で納得いく様な準備を始められると良いでしょう。

時事評論 一恥という観点で世の中をみる一

今日、代表幹事が良いことを言ってくれましたから、恥という観点で世の中をみる、自分自身をみるという良いテーマを出して頂いたと思うので、その視点でいくつか申し上げたいと思います。

今回湯島聖堂から場所を変え、二松学舎大学で講話という事になりました。二松学舎大学について少々申しますと、二松学舎大学は明治10年10月10日三島中洲が創立しました。三島中洲は大正天皇の漢詩の先生でした。歴代の天皇の中で漢詩をたくさん作られたのが大正天皇でした。優秀で立派な漢詩を作ったという評価が残っており、石川忠久先生は大正天皇を見直さないといけないと言っております。大正天皇は三島中洲を慕って、郊外に出かける時には手をひいたりして氣を使ったようです。三島中洲が80歳代の時に、自分の後を誰かと思え、渋沢栄一に舎長をと頼みました。

二松学舎の理事長は、いつかは舎長になりたいと思っているようです。人間ある程度歳を取ると名誉が欲しくなるものようです。西郷隆盛が、名誉、地位、金もいらぬという人間が一番手こずると言っていました。西郷もそのような人物でしたが、でも島流しに遭った時、島での奥さんはいました。渋沢栄一も名誉、地位、お金もいらぬけれどお妾さんはいました。

学者は学長になりたく、経営に携わっている者は理事長というのです。そして理事長をかなりやると、どういうわけか舎長になりたがる。三島中洲は創業者だからよい、渋沢栄

一は頼まれて舎長になり、しばらく飛ばして吉田茂舎長という名前も残っています。

渋沢栄一は頼まれて舎長をやっていましたが、それが面白いことに残っている資料を見ますと舎長をした年月が、みなバラバラです。渋沢栄一の伝記資料第45巻の資料を見ますと明快なものが一つありました。別巻の4、書簡の2には、渋沢栄一が三島中洲とやり取りした手紙の中に、頼まれたから引き受けたというのがあり、国分三亥という教授が、渋沢栄一が亡くなった時に追悼文を読んでいるその中に渋沢栄一が舎長になれて何年なり云々というのがあり、それは本巻と日にちが違います。だから現在、図書館の専門員に調べてもらっている最中です。

時間が経つと記録もずれていき、分からなくなります。偉いと思われる人物も100年経つと、50年ぐらいでも良いですが、記録が分からなくなりますから、しっかり残そうと思うものはしっかり残すべきです。先ほどの雅英さん曰く、「渋沢栄一ひとりの人物の手紙から講演記録から色々これだけ残っているのは世界的にみてもあまりないことです」と言っていました。確かに充実した資料が渋沢資料館には残っています。

私は以前大学の経営で、止せば良いのに一つ余計なアドバイスをした事がありました。教職員が大学に迷惑をかけた時、どのように責任を取れば良いかという仕組みをきちんと作るべきだという提案をしました。後始末の仕方を条文化するべきだと出したら、むにやむにやと言って消えてしまいました。大概そのような提案をするのは煙たいのです。私は余計な事を言ったが為に、次は再任されなかったと思っています。だが今だ以て条文は作られていない。今思えばその頃は、純粹に突き進んでいました。純粹というのは人様に迷惑をかけることがある。自分が純粹で真面目に行動する時には、ちょっと待てとブレーキをかける必要がある。

小泉進次郎さんはこの間の選挙に誰を押し出すと言わなかったというのは、あれは賢かったと思う。言うとな崩現象を起していたかも知れませんね。今まで時事評論で民主党の無様な手を見るのが良いと言っていましたが、次は自民党が政権は取るでしょうから、自民党のうつつ無様な手もよく見ておくとよいでしょう。そうすると、公明党もみんなの党も色々な政党、みな一丸となって日本の国を悪くしているのが視野に入ります。そのような時代に間違いなく入ってきているので、我々も何か行動を起こす時に、周りを批判するだけではなく、自分自身も氣をつけて正しい事を実行しようとする時には、ちょっと待てよと考える時間が必要だと思います。

正しい事を正しいと信じて行かう時は、一直線になり周りを踏みつぶしますから、これは危険です。踏みつぶす時には正義だと信じていますから余計手を負えない。

昔、右翼の大立者と話をした時に、「我々は一刃必殺です。刺す時にはこういう仕方で人を刺し、人を刺して殺した後は靖国神社で奉れないことをもって旨とすべしと弁えています」と80歳過ぎた右翼の大立者が言っておりました。あれはどういう人なんだいと紹介者の友人に聞いたら、「神様みたいな扱いなんだよ」と聞いたことがあります。だから正しい

と思って信じて実行する人は氣をつけた方がよい。不純な動機だとそこまで被害をもたらさない。不純な動機なら大丈夫でしょう。相手が正しいと信じている時ほど手に負えないしやっかいです。そういう時の対応も考えた方がよいでしょう。ある程度の問題の時には和解をさせるということも必要です。和解する時のタイミングというのは、よく修羅場を踏まないと分かりませんから、たくさん修羅場を踏んで下さい。

最後に申し上げることは好奇心をお持ちいただくと良い。好奇心をもっていると日本の国を大きく建て直す時には、役に立ちます。

渋沢栄一が好奇心を以てフランスに出掛けて行ったお陰で、地下に潜り「火」と「水」の仕組みを知り、外国の公債を買って利益を生み、日本に利益を持って帰り全員の旅費を返し尚且つ利益を私利私欲無しに皆に配った。陽明学でいけば好奇心と実行力です。これがあれば怖いものなしです。

好奇心、実行力、それから三省、これが加われば万々歳です。